

財団法人
日本分析センター
 ■ 第 3 四半期報 ■

January 2009 No. 31



日頃の心がけ

文部科学省科学技術・学術政策局次長／原子力安全監
 中 原 徹

小林秀雄の「本居宣長」という本は、これまで何度か挑戦してきましたが、その都度放り投げてきた本でした。今年9月に仕事で三重県に行く予定ができ、「本居宣長」の冒頭小林秀雄が三重県松阪にある宣長の墓を訪問するくだりを思いだし、再度読み始めてみました。無理をせず、少しずつ、ゆっくり、頻りに後戻りをしながら、読んでみました。今回は補記も含めて何とか通読することができましたが、残念ながら、とても十全に理解できたとは言えません。ただ、全体を通じて、宣長の学問に対する考え方、あるいは、小林秀雄の学問に対する考え方が繰り返し述べられていることぐらいはなんとなく理解できました。それらは、今日でも、学問だけではなく、例えば仕事にもそのまま通用することが興味深いところです。

宣長は学問について、“はじめから志を高く大きく立てて、奥を究めつくさずにはおかないと堅く決心してやらなければならない”と述べています（「うひ山ぶみ」より意識）。優れた学問的成果を出すには高い志と究めつくすぞという気魄が必要だということでしょうか。

今年4人の日本の研究者がノーベル賞を受賞さ

れました。受賞者の方々のコメントを聞いていますと、誰もが彼らの高い志と燃えるような知的好奇心・探求心を感じたのではないのでしょうか。

他方、宣長は私のような不才の人間にも励ましとなることを述べてくれています。少し長いですが「うひ山ぶみ」から意識で引用します。“つまるところ学問は、長い年月倦まず怠らず励み努めることが肝要である。（中略）才不才は生まれつきだからしょうがないが、不才でも大抵の人は怠らずつとめれば成果は出るものである。晩学の人でもつとめ励めば、思いの外成果が出ることもある。時間のない人も時間がある人よりも成果を出すこともある。不才の人、時間のない人、晩学の人でも志を折ってはいけない。とにかく、努力すればできると心得なければならない。”

いかがでしょうか。何とも励まされる言葉ですが、取りようによっては耳の痛い言葉でもあるようにも思えます。忙しさに流されることが多い日々ではありますが、少しでも自分らの仕事がよいものになるように頑張らなければならないと思う次第です。

第50回環境放射能調査研究成果発表会の開催について

第50回環境放射能調査研究成果発表会が、文部科学省の主催により平成20年12月4日(木)午後、文部科学省講堂において開催されました。本発表会は、国立試験研究機関、独立行政法人、全国都道府県の試験研究機関及び関係民間機関が実施した環境放射能調査研究等に関する成果の発表の場として、昭和34年から毎年開催されており、本年は約110名の参加がありました。

開会に際し、文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課防災環境対策室木野正登室長から、環境放射能調査研究の第一線で携わる方々が、年に1回一堂に会し、直接に情報及び意見交換をされることは大変有意義であり、今後の調査研究活動が、より一層発展されることを祈念するとの挨拶がありました。

当日は、平成19年度の調査研究成果94件の中から、10件が2つのセッションに分けて口頭発表されました。

以下に、題目、発表者等を記します。

1. 環境に関する調査研究（大気、陸）

- ・放射性降下物の長期変動と再浮遊に関する研究
国土交通省気象庁気象研究所 廣瀬勝己
- ・山陰の高地でのIn-Situ Ge測定
島根県保健環境科学研究所 生田美抄夫
- ・環境放射線等モニタリング調査結果について
財団法人日本分析センター 長岡和則
- ・自然放射性核種及び再処理関連核種に係る水準調査
財団法人日本分析センター 前山健司

- ・大気中放射性希ガス濃度の全国調査
財団法人日本分析センター 新田済

2. 環境に関する調査研究（海洋）

- ・海洋環境における人工放射性核種の長期挙動の研究
国土交通省気象庁気象研究所 青山道夫
- ・東海再処理施設周辺の海水中³H濃度及び拡散状況について
独立行政法人日本原子力研究開発機構 東海研究開発センター 武石稔
- ・日本周辺海域海底土の放射能調査
独立行政法人水産総合研究センター 中央水産研究所 皆川昌幸
- ・平成19年度核燃料サイクル施設沖合海域の海洋放射能調査
財団法人海洋生物環境研究所 御園生淳
- ・マダラの成長に伴う¹³⁷Cs濃度の濃度変動
財団法人海洋生物環境研究所 磯山直彦

今回は昨年度までと違い、午後のみという短い時間枠の中で行われたため、発表件数が少なくなりました。また、発表方法が配付資料に基づく口頭発表という形で行われたため、発表内容によっては少し理解しにくい場面がありました。しかし、多くの興味深い調査研究成果が発表されたため、活発な質疑応答があり、参加者にとって貴重な情報交換の場となりました。

(分析業務部 磯貝啓介)

平成20年度原子力・放射線安全管理功労表彰について

原子力・放射線安全管理功労表彰は、放射性同位元素等及び核原料・核燃料物質等の取扱い、試験研究炉等の運転等における安全確保、環境放射能・原子力防災対策の向上又は核物質管理のために尽力して、優れた成果を上げた個人又は事業所等を表彰することにより、関係者の更なる意欲の向上と原子力の安全確保及び核物質管理に対する国民の理解増進に資することを

目的としています。

本表彰は、(財)原子力安全技術センター及び(財)日本分析センターが主催し、文部科学省の後援、(財)核物質管理センター、(社)日本アイソトープ協会及び放射線障害防止中央協議会の協賛を得て、平成15年度から実施しています。

平成20年度原子力・放射線安全管理功労表彰は、放射線安全管理功労部門で12名、核燃料物

質・試験研究炉等安全管理功労部門で1名、環境放射能対策功労部門2名、原子力防災対策功労部門で1名、核物質管理功労部門で1名及び1事業所が選考され、計5部門で17名1事業所が受賞されました。表彰式及び表彰記念パーティーが、平成20年11月7日(金)に虎ノ門パストラルにおいて、山内俊夫文部科学副大臣、泉紳一郎文部科学省科学技術・学術政策局長、東邦夫原子力安全委員会委員長代理等、多くの関係者にご出席いただき、華やかに開催されました。受賞者には文部科学大臣賞が贈られました。

当センター業務と関わりの深い環境放射能対策功労部門は、平成15年度から毎年2名の方が受賞しており、平成20年度は島根県保健環境科学研究所の江角周一氏及び日本原燃株式会社の瀧田昭久氏が受賞しました。

平成21年度原子力・放射線安全管理功労表彰は、6月上旬頃に文部科学省のホームページ内にある「原子力・放射線の安全確保ホームペー



平成20年度原子力・放射線安全管理功労表彰受賞者及び関係者による記念撮影

ジ」に、平成21年度原子力・放射線安全管理功労表彰の推薦要領が掲載され、関係機関に対して推薦の募集を行う予定です。その後、厳正な選考を経て、平成21年11月6日(金)に霞が関ビルの東海大学校友会館において、表彰式を開催する予定です。

貴機関において候補者がおられましたら、是非、ご推薦をいただきますようお願い申し上げます。

(企画室 池内嘉宏)

台湾行政院原子能委員会輻射偵測中心との 国際技術交流

台湾行政院原子能委員会輻射偵測中心(RMC : 台湾・高雄市)との技術交流に係る第22回運営会議が11月13, 14日に当センターにおいて開催されました。RMCからは黄景鐘(Mr. Ching-Chung Huang)主任[所長]、劉祺章(Dr. Chi-Chang Liu)薦任技士、張新田(Mr. Hsin-Tien Chang)委任技士の3名が出席しました。当センターからは、佐藤理事他7名が出席しました。

運営会議の概要は以下のとおりです。

1. 2007年度相互比較分析結果

(1) 対象試料

淡水(地下水)、海水、茶葉及び土壌

(2) 分析・測定項目

- ①核種分析： γ 線スペクトロメトリー (^{40}K , ^{137}Cs , ^{208}Tl , ^{228}Ac)、放射化学分析 (^{90}Sr , ^{137}Cs , $\text{U}(\alpha)$, ^3H)、全 β 放射能

②積算線量測定

(3) 分析結果

全ての項目について両機関の結果は検討基準内で一致しました。

2. 2008年度実施計画

2008年度は2007年度と同様の計画で実施することとしました。

3. その他

本会議の中で2件の口頭発表がありました。

(1) Some Consumer Products Containing Radioactive Substances and Guidelines for the Regulatory Control : RMC 劉祺章氏

(2) Analysis of Po-210 in JCAC : 日本分析センター 北村清司

(分析業務部 桐田博史)

年月日	環境放射能調査に係る自治体、日本分析センター等の行事
20 9 30	平成20年度原子力施設等放射能調査機関連絡協議会放射線監視に係る海外調査（～10/11）
10 1	第1回環境放射線情報収集公開委員会
6	環境放射能分析研修「環境放射線モニタリングにおける線量評価－平常時及び緊急時－」（～10）
7	千葉市立山王小学校2年生及び保護者25名来訪
9	第1回環境放射能水準調査検討委員会
15	環境放射能分析研修「環境放射線量測定法－緊急時対応－」（～17）
22	所内講演会（独立行政法人物質・材料研究機構 谷藤幹子氏）
24	横須賀市原子力防災訓練
27	JICA 集団研修「環境放射能分析・測定技術」コース（～11/21）
29	環境放射能測定に係る相互比較分析に関する会議2008（於：中国浙江省杭州市）（～30）
30	第107回月例セミナー（原子力艦放射能調査室）
11 7	平成20年度原子力・放射線安全管理功労表彰式
12	所内講演会（独立行政法人海洋研究開発機構 大河内直彦氏）
13	台湾行政院原子能委員会輻射偵測中心との第22回運営会議（～14）
	第2回発電用軽水型原子炉施設における放出放射性物質の測定に関する指針等に係る調査技術検討会
27	第108回月例セミナー（独立行政法人日本原子力研究開発機構 天野光氏）
12 4	第50回環境放射能調査研究成果発表会（文部科学省）
5	中国江蘇省輻射環境監測管理ステーション4名来訪
8	第1回放射能分析確認調査ワーキンググループ
16	日米合同原子力防災訓練（横須賀市）
19	所内安全パトロール
22	ラドン調査等の実施に係るワーキンググループ
26	第109回月例セミナー（技術審査室）

トピック

◆中国江蘇省輻射環境監測管理ステーションからの来訪

平成20年12月5日に、中国江蘇省輻射環境監測管理ステーションから、陸 継根副ステーション長他2名が当センターを訪問され、環境放射能分析及び環境放射線モニタリングについて意見交換を行い、当センターの施設を視察されました。今後、江蘇省輻射環境監測管理ステーションと当センターの交流を、より深めていきたいとの発言が、陸副ステーション長よりありました。

四半期報に関するお知らせ

本四半期報(No. 31)をもちまして、冊子による配布は最後と致します。今後は、ニュース等があるごとに当センターのホームページ(<http://www.jcac.or.jp/>)の「最新情報」に掲載致します。

財団法人 日本分析センター 第3 四半期報 January 2009 No.31

発行日 平成 21 年 1 月 9 日

編集発行 財団法人 日本分析センター

〒263-0002 千葉県稲毛区山王町 295 番地 3

TEL (043) 423-5325 FAX (043) 423-5326

URL <http://www.jcac.or.jp/>